

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月11日
【四半期会計期間】	第17期第1四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社ボルテージ
【英訳名】	Voltage Incorporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横田 晃洋
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部管轄 松永 浩
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号恵比寿ガーデンプレイスタワー
【電話番号】	03（5475）8193
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部管轄 松永 浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第1四半期連結 累計期間	第17期 第1四半期連結 累計期間	第16期
会計期間	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日	自平成26年7月1日 至平成27年6月30日
売上高 (千円)	2,647,577	2,782,549	10,599,572
経常損益(は損失) (千円)	35,688	83,340	485,439
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益(は損失) (千円)	46,947	75,284	232,546
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	31,023	82,203	278,799
純資産額 (千円)	3,466,769	3,634,592	3,789,735
総資産額 (千円)	4,758,739	4,964,865	4,999,285
1株当たり四半期(当期)純損益金額(は損失) (円)	9.18	14.59	45.31
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	44.76
自己資本比率 (%)	72.2	72.8	75.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第16期第1四半期連結累計期間及び第17期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純損益(は損失)」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益(は損失)」としております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)財政状態の分析

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、4,964,865千円(前連結会計年度末比34,419千円減)となりました。

流動資産は、3,636,808千円(前連結会計年度末比50,987千円減)となりました。その主な要因は、現金及び預金が114,408千円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、1,328,056千円(前連結会計年度末比16,567千円増)となりました。その主な要因は、無形固定資産が53,508千円増加したこと等によるものであります。

(負債の部)

負債は、1,330,272千円(前連結会計年度末比120,723千円増)となりました。

流動負債は、1,330,272千円(前連結会計年度末比120,723千円増)となりました。その主な要因は、未払費用等が149,740千円増加したこと等によるものであります。

(純資産の部)

純資産は、3,634,592千円(前連結会計年度末比155,143千円減)となりました。その主な要因は、利益剰余金が152,606千円減少したこと等によるものであります。

(2)経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続く中で、企業収益は改善しました。また、個人消費は、消費者マインドの持ち直しに足踏みが見られるものの、実質総雇用者所得は持ち直しており、総じて底堅い動きとなっております。

モバイルビジネスを取り巻く環境は、スマートフォン契約比率(注1)は、平成27年3月末に構成比54.1%となっており(注2)、また、平成26年のスマートフォンにおけるゲーム・ソーシャルゲーム等市場規模は、前年比60%増の8,938億円(注3)まで成長しており、今後も同環境は発展していくことが予想されます。

このような環境の下、当社グループは、「恋愛と戦いのドラマ」をテーマとしたコンテンツ作りを追求しつづけるとともに、中期戦略として、日本語版恋愛ドラマアプリのノウハウを英語版恋愛ドラマアプリ及びサスペンスアプリへ展開することで、ターゲット市場の拡大を図っております。当期は、日本語版恋愛ドラマアプリの新規ユーザー獲得及び既存ユーザーのARPPU(注4)向上、英語版恋愛ドラマアプリの注力路線の絞り込み、サスペンスアプリの新規タイトル投入と、KPI向上により、さらなる収益の拡大に努めてまいります。

当第1四半期連結累計期間における売上は、日本語版恋愛ドラマアプリのF2P(注5)は、前年同期比でソーシャル専門PF(注6)向けが減少しましたが、OS系PF(注7)向けが増加し、計画を上回りました。P2P(注8)は、前年同期比でOS系PF向け及びキャリア公式PF(注9)向けが減少しましたが、計画比では上回りました。全体では、2,373,140千円(前年同期比6.4%増)となりました。

英語版恋愛ドラマアプリは、L10N(注10)は前年同期比で増加し、計画を上回りました。DRAGON(注11)は、シリーズ初となる新規タイトルの投入を行いました。US REAL(注12)は新規タイトルのリリース延期等により減少し、計画を下回りました。全体では、407,122千円(前年同期比38.3%増)となりました。

サスペンスアプリは、新規タイトルのリリース延期等により前年同期比で大幅に減少し、2,286千円(前年同期比98.1%減)となりました。

以上により、売上全体では、前年同期比で増加し、概ね計画どおりとなりました。

費用は、コンテンツ数の増加及び名作IP(注13)タイトルのロイヤリティ増加による外注費の増加、OS系PF向け売上の増加に伴う販売手数料の増加、人員増加による労務費の増加等がありました。また、広告宣伝費については、モバイル広告を抑えるなど効率的に使用し前年同期比では減少しましたが、テレビCMの追加出稿等により計画比で大幅に増加しました。

以上により、費用全体では、前年同期比及び計画比で増加しました。

利益は、費用の増加により前年同期比及び計画比で減少しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は2,782,549千円（前年同期比5.1%増）、営業損失75,508千円（前年同期は営業損失41,213千円）、経常損失83,340千円（前年同期は経常損失35,688千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失75,284千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失46,947千円）となりました。

当第1四半期累計期間の主な取り組みは、以下のとおりであります。

（日本語版恋愛ドラマアプリ）

F2Pは、新規タイトル「花より男子～F4とファーストキス～」 「ダウト～嘘つきオトコは誰？～」が好調に立ち上がりましたが、「LINE 悪魔と恋する10日間 Heaven's Kiss」が初期不具合等により低調に推移しました。また、既存タイトル「天下統一恋の乱 Love Ballad」「鏡の中のプリンセス Love Palace」等が好調に推移しました。ユーザー獲得施策は、平成27年8月に「天下統一恋の乱 Love Ballad」「鏡の中のプリンセス Love Palace」、9月に「花より男子～F4とファーストキス～」のテレビCMを出稿しました。

P2Pは、新規タイトル「教師たちの秘密の放課後」が好調に立ち上がりました。また、既存タイトル「上司と秘密の2LDK」等も好調に推移しました。ユーザー獲得施策は、平成27年9月に「偽りの君とスキャンダル」「上司と秘密の2LDK」のテレビCMを出稿しました。

（英語版恋愛ドラマアプリ）

L10Nは、新規タイトル「Kiss Me on Clover Hill（注14）」 「My Last First Kiss（注15）」 「Gossip Girl: PARTY Style Your Love（注16）」が好調に立ち上がりました。また、既存タイトル「Kissed by the Baddest Bidder（注17）」 「My Forged Wedding:PARTY（注18）」等も好調に推移しました。ユーザー獲得施策は、平成27年7月から8月にかけてコンテンツ横断イベントを実施し、計画以上の効果が得られました。

DRAGONは、シリーズ初となる新規タイトル「Labyrinths of Astoria（注19）」を投入し、KPIは概ね好調に推移しました。また、シリーズ化に向けた2アプリ目の制作に取り組みました。

US REALは、平成27年8月にF2P新規タイトル「Kisses & Curses」のテストリリースを実施し、引き続き北米への本格展開に向けた制作に取り組みました。

（サスペンスアプリ）

収集・育成要素を含む新規タイトルの投入を予定していましたが、ベータ版の評価を踏まえ、投入予定時期を第2四半期に延期し、クオリティの向上に取り組みました。

- （注）1．スマートフォン契約比率：スマートフォンとフィーチャーフォンを合わせた端末総契約数に占めるスマートフォンの割合
2．出所：株式会社MM総研「スマートフォン契約数および端末別の月額利用料金・通信料」2015年6月11日発表
3．出所：一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム調査2015年8月24日発表
4．ARPPU：Average Revenue Per Paid Userの略称。課金ユーザー1人あたりの平均売上金額
5．F2P：Free-to-Playの略称。基本プレイ無料・アイテム課金制のコンテンツ
6．ソーシャル専用PF：GREE、Mobage、mixi、Ameba等のSNS PF
7．OS系PF：App Store、Google Play等のアプリマーケット
8．P2P：Pay-to-Playの略称。ストーリー単位の個別課金制のコンテンツ
9．キャリア公式PF：NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルが運営するサイト
10．L10N：北米市場向けアニメ絵であり、日本語版恋愛ドラマアプリを翻訳したコンテンツ。Localizationを意味する省略表記
11．DRAGON：北米市場向けアニメ絵であり、北米市場向けに作ったコンテンツ。北米向けにアレンジされたドラゴンロール寿司に由来。対ユーザー呼称AmeMix(アメミックス)
12．US REAL：北米市場向けリアル絵のコンテンツ(旧：USオリジナル)
13．他社の知的財産を用いたタイトル
14．邦題：「ルームシェア素顔のカレ」
15．邦題：「大人の初恋、はじめます」
16．邦題：「ゴシップガール～セレブな彼の誘惑～」
17．邦題：「スイートルームで悪戯なキス」
18．邦題：「誓いのキスは突然に」
19．平成27年10月に、「Astoria: Fate's Kiss」へ名称変更しております

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,120,000
計	15,120,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,160,269	5,160,269	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株となっております。
計	5,160,269	5,160,269	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成27年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日 (注)1	5,202	5,160,269	900	923,215	900	888,815

(注)1.新株予約権の行使による増加であります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,152,700	51,527	権利内容に限定のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,167	-	-
発行済株式総数	5,155,067	-	-
総株主の議決権	-	51,527	-

【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ボルテージ	東京都渋谷区恵比寿 四丁目20番3号	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた監査法人による四半期レビューを受けております。なお、あらた監査法人は平成27年7月1日付をもって、名称をPwCあらた監査法人に変更しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,820,557	1,706,148
売掛金	1,722,355	1,746,118
前払費用	68,877	66,811
繰延税金資産	69,141	77,328
その他	8,302	42,093
貸倒引当金	1,438	1,691
流動資産合計	3,687,796	3,636,808
固定資産		
有形固定資産	343,195	310,259
無形固定資産		
ソフトウェア	555,946	609,454
無形固定資産合計	555,946	609,454
投資その他の資産	412,347	408,342
固定資産合計	1,311,488	1,328,056
資産合計	4,999,285	4,964,865
負債の部		
流動負債		
買掛金	194,332	213,034
未払金	5,979	-
未払費用	756,669	906,409
未払法人税等	108,617	4,868
賞与引当金	-	106,567
その他	143,951	99,392
流動負債合計	1,209,549	1,330,272
負債合計	1,209,549	1,330,272
純資産の部		
株主資本		
資本金	922,314	923,215
資本剰余金	887,914	888,815
利益剰余金	1,897,942	1,745,335
自己株式	196	196
株主資本合計	3,707,975	3,557,168
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,629	1,119
為替換算調整勘定	61,053	55,644
その他の包括利益累計額合計	63,682	56,763
新株予約権	18,077	20,660
純資産合計	3,789,735	3,634,592
負債純資産合計	4,999,285	4,964,865

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
売上高	2,647,577	2,782,549
売上原価	899,993	1,068,534
売上総利益	1,747,583	1,714,015
販売費及び一般管理費	1,788,797	1,789,523
営業損失()	41,213	75,508
営業外収益		
受取利息	274	270
受取配当金	7	7
助成金収入	330	8,586
為替差益	4,960	-
雑収入	3	417
営業外収益合計	5,575	9,281
営業外費用		
為替差損	-	17,113
雑損失	50	-
営業外費用合計	50	17,113
経常損失()	35,688	83,340
税金等調整前四半期純損失()	35,688	83,340
法人税、住民税及び事業税	32,581	811
法人税等調整額	21,322	8,867
法人税等合計	11,258	8,056
四半期純損失()	46,947	75,284
親会社株主に帰属する四半期純損失()	46,947	75,284

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
四半期純損失()	46,947	75,284
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,764	1,510
為替換算調整勘定	14,158	5,408
その他の包括利益合計	15,923	6,918
四半期包括利益	31,023	82,203
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	31,023	82,203

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)
減価償却費	68,936千円	102,508千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年9月25日 定時株主総会	普通株式	97,199	19.0	平成26年6月30日	平成26年9月26日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年9月29日 定時株主総会	普通株式	77,322	15.0	平成27年6月30日	平成27年9月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	9円18銭	14円59銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	46,947	75,284
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	46,947	75,284
普通株式の期中平均株式数(株)	5,116,239	5,158,441
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月11日

株式会社ボルテージ

取締役会御中

P w C あらた監査法人

指定社員 業務執行社員 公認会計士 岩尾 健太郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ボルテージの平成27年7月1日から平成28年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ボルテージ及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。